

## 平成28年度 IRIDeS 共同研究「地域再創生学に資する多次元統合可視化システムを用いた教育用コンテンツの開発 第1回ワークショップ」を開催しました（2017/2/11-12）

テーマ：地域再創生、多次元可視化、防災教育  
場所：災害科学国際研究所 1階多目的ホール

2017年2月11日（土）から12日（日）の2日間にわたり、災害科学国際研究所にて「地域再創生学に資する多次元統合可視化システムを用いた教育用コンテンツの開発 第1回ワークショップ」を開催しました。災害科学国際研究所共同研究の公募は今年度から始まりましたが、本プロジェクトは採択された13のうちの一つです。当研究所に設置されている多次元可視化システム（IMIDeS）を用いて、各研究者の所有するデータをどのように加工・制作したら防災教育用に資することができるか検討し、開発に繋げていくことを目的としています。今回のワークショップには、当研究所 地域・都市再生研究部門の村尾修教授、寺田賢二郎教授、森口周二准教授、姥浦道生准教授（兼工学研究科）、リーディング大学院の杉安和也助教の他、東京大学生産技術研究所の目黒公郎教授、腰原幹雄教授、竹内涉准教授、郷右近秀臣助教、東京大学大学院工学系研究科の川崎昭如准教授、人と防災未来センターの坪井壺太郎主任研究員と立命館大学文学部の花岡和聖准教授が参加し、各々がこれまでの研究成果を報告し、可視化の可能性と有用性について議論しました。

11日は、村尾教授の趣旨説明のあと、第一部として「多次元型統合可視化システム」の紹介と、それを用いた3Dドキュメンタリー作品『津波3.11 未来への記憶（ダイジェスト版）』が上映されました。その後、各自研究事例の紹介を行い、可視化への展開可能性についての総合議論を行いました。

12日には、多次元統合可視化システムを用いた教育用コンテンツ作成に関する議論の後、次回のワークショップに向けて話し合われました。

2日間を通して、極めて有益な情報共有とディスカッションを行うことができました。次回第2回ワークショップは、3月5日に行われる予定です。



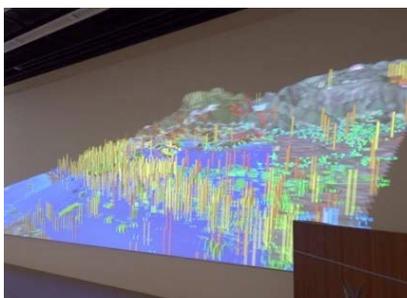
ワークショップ風景



集合写真



IMIDeSを用いた  
ディスカッション



IMIDeSを用いた  
ディスカッション



目黒教授による発表



郷右近助教による発表